

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画

教職課程に係る理念及び目標は、アドミッション・ポリシーに係っては各学部学科の専門性を活かして学校教育に貢献しようという目的意識や多様な人々と協働することが可能な資質や能力を有していること、カリキュラム・ポリシーに係っては修得した知識や技能を統合させながら基礎的な指導のスキルを身に付けることや学校教育の実践につながる少人数制によるカリキュラムを提供すること、ディプロマ・ポリシーに係っては各学校段階に即した指導のスキルの習得や教育の専門職員としてのコミュニケーション能力を身に付けるとしている。

なお、音楽学科では、実践的指導力を身に付けることを目的に、題材の構成方法や学習指導の実践的展開が学修できるよう2年次科目「音楽教育法A・B」、3年次科目「音楽教育法C・D」の系統性を図っていることが特色である。また、デジタル教科書や教科書会社が提供するデジタルコンテンツを学習指導に活用することへ取り組んでいる。

美術学科では、実践的指導力を身に付けることを目的に、題材の構成方法や学習指導の実践的展開が学修できるよう2年次科目「美術教育法A・B」、3年次科目「美術教育法C・D」の系統性を図っていることが特色である。特に「美術教育法A・B」では現職教員を講師に迎え、実践的な学修を展開している。

地域社会学科では、実践的指導力を身に付けることを目的に、社会科教育、公民科教育の全体像の理解とともに、学習指導の実践的展開が学修できるよう2年次科目「社会科教育法A・B」、3年次科目「公民教育法A・B」の系統性を図っている。

保育科では、カリキュラ・ポリシーに基づき学生一人ひとりの関心に応じて「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、教育目標に示すように得意分野を持ち実践力を身に付けた感性豊かな保育者を養成するよう工夫している。また、1年次科目「教育実習Ⅰ」2年次科目「幼児教育の方法と技術」など附属幼稚園での観察・参加・グループ実習を通して実践力を身に付けることができる教育体系となっていることが特色である。

上記教員養成における目標を、各段階における到達目標としてまとめるならば、以下の表のようになる。

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教員になろうという意欲を高めるとともに、教員としての基礎知識を修得することを目標とする。「教師論」の学修を通して、教員の法的な服務規定を学ぶと同時に、教職の意義を学生一人ひとりが理解することを目指す。「教育原理」では教育の思想・歴史を通して教育という営みが人間にとってどのような意味をもつのかを理解することを目指す。「教育方法」では教育方法理論と同時に、実際に教えることの技術を身に付けることを目指す。
	後期	前期の学修を踏まえ、教師として必要となる具体的な知識や学校現場での実践例を学び、教育問題への理解を深めることを目標とする。「教育課程論」では学校教育における各教科等のカリキュラムを学ぶことを通して、生徒がどのように学びを深めるかを学ぶ。「生徒・進路指導論」では具体的に学校教育の諸問題を取りあげ、いじめ・不登校などの問題の背景や取り組みなどについて学ぶとともに、キャリア教育で求められる知識を学ぶ。
2年次	前期	教員としての基礎知識を一層深めるとともに、教科指導力を高めることを目標とする。各科の指導法講義においては、教科指導力を高めるため教材研究の重要性を修得する。「教育心理学」では生徒の発達や学習について知識を得、「教育相談の基礎と方法」では教師に求められるカウンセリングマインドについて学ぶ。
	後期	教科指導力を鍛え上げることを目標とする。各科教育法では教材研究を深め、学生が実際に教壇に立った時に自分で教材を開発できるように具体的な学びについて指導する。「道徳教育の理論と実践」では道徳の時間の学習指導案の作成・模擬授業を行い、教師として教える力を向上させることを目指す。
3年次	前期	教員としての基礎知識を完成させるとともに、学習指導案作成と模擬授業を中心とした教科指導力の向上を目指す。「教育制度論」では教育制度の特徴を学ぶと同時に、学校経営がどのようになされているかを学ぶ。各科教育法では学習指導案の作成と模擬授業を行うが、最終的には次年度の教育実習で教える力を育てる。「介護等体験」では社会福祉施設と特別支援学校での体験を通して、コミュニケーション力や対人関係能力の向上を目指す。
	後期	学習指導案作成と模擬授業を中心とした教科指導力の完成を目指す。各科教育法では学習指導案の作成と模擬授業を行うが、最終的には次年度の教育実習で教壇に立てる力を完成させる。「教育実習事前事後指導」では教育実習の事前指導を行い、教育実習への心構えを修得させる。「特別活動論」では学級活動や学校行事等が生徒の人間形成に果たす重要性を学ぶ。
4年次	前期	教育実習に行き、これまでの教職課程の成果を発揮することを目標とする。「教育実習事前事後指導」では教育実習の最終的な事前指導を行う。「教育実地研究」で実際に教育実習に行き、教科指導、生徒指導、学校経営を学ぶ。実際に生徒に対して授業をすることで、教員としての使命感・対人関係能力・教科指導力・学級経営など教員としての資質向上を目指す。
	後期	教員としての資質を完成させることを目標とする。「教育実地研究」では教育実習の事後指導を行い、教育実習から学んだ内容を自己反省する。「教職実践演習（中・高）」では教員としての資質の完成を回り、教員としての使命感・対人関係能力・教科指導力・学級経営の力を学生が備えているかを最終確認する。